

資料：続・ドンデーン村における貯蔵を考慮した米供給量の評価

1. 目的

前回の資料〔河野 1986〕で、貯蔵を考慮した現況の米供給量の時系列をシミュレーション結果に基づいて算出し、ドンデーン村における米の収支を検討した。

今回は、福井先生の要請により、ある農家の水田が、高位田、中位田、低位田のいずれかに限られていたと仮定した場合の米収支を、100年間の米生産のシミュレーションに基づいて検討した。

2. 方法

①米生産量

洪水や干ばつによる収量の減少率は、高位田、中位田、低位田のみの場合を、それぞれシミュレーション結果から算出した。

1人あたりの水田面積は、いずれの場合においても、現在のドンデーン村におけるそれと同様（約 0.4ha）とした。

種モミ量は、前回の50kg/ha は誤りであったので、30kg/ha に修正した。

上記の点以外は前回と同じである。

②米消費量

前回と同様、モミ400kg/人・年と仮定した。

③米倉容量

前回と同様、米消費量の3年分、すなわちモミ1,200kg と仮定した。

④貯蔵ロス

Grist [Grist 1986: 413] によると、村における貯蔵では年間5%とするのが妥当な値とされている。これは、前回の仮定と同様の値である。

3. 結果

低位田のみの場合、中位田のみの場合、高位田のみの場合、低、中、高位田を合わせ持つ場合の100年間の米の収支のシミュレーション結果を、それぞれ図1～図4に示す。それぞれの場合の米収支をまとめると表1に示すようになる。

表1 100年間の米収支

(単位はkg/人)

水田の位置	総生産量	販売		購入	
		年数	総量	年数	総量
低位田のみ	60,614	58	18,113	4	744
中位田のみ	40,118	18	4,900	29	6,408
高位田のみ	33,154	14	2,813	44	10,937
全域*	44,624	23	5,662	17	3,109

注) *種モミ量を修正したので、前回の資料とは値が異なる。

【参考文献】

- 1) 河野泰之. 1986. 「ドンデーン村における貯蔵を考慮した米供給量の評価」
『DDニューズレター』29: 44-47.
- 2) D.H.Grist. 1986. Rice, sixth ed.. London: Longman.

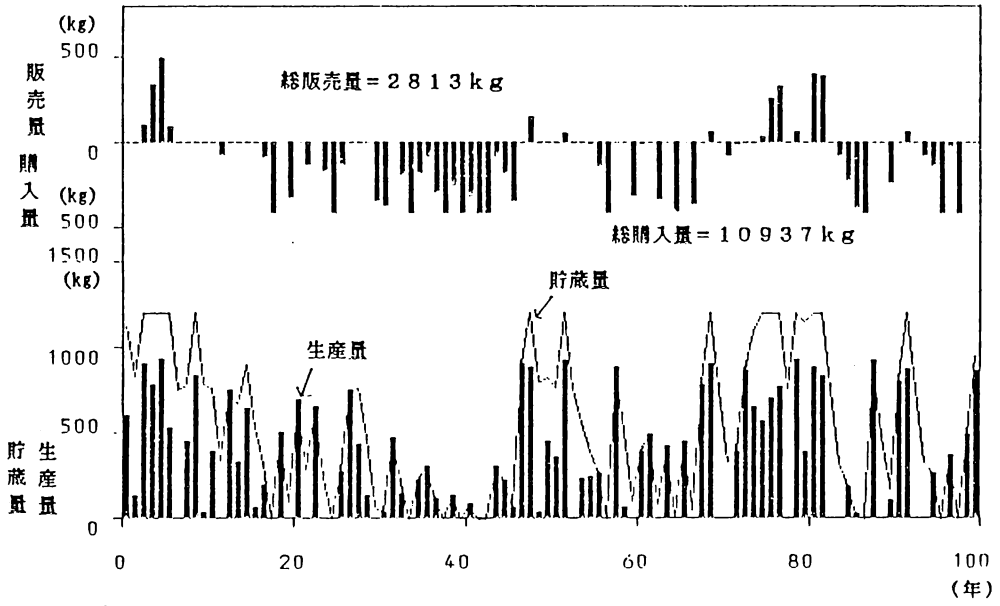


図1 100年間の米生産量、貯蔵量、購入量、販売量のシミュレーション
(高位田のみの場合)

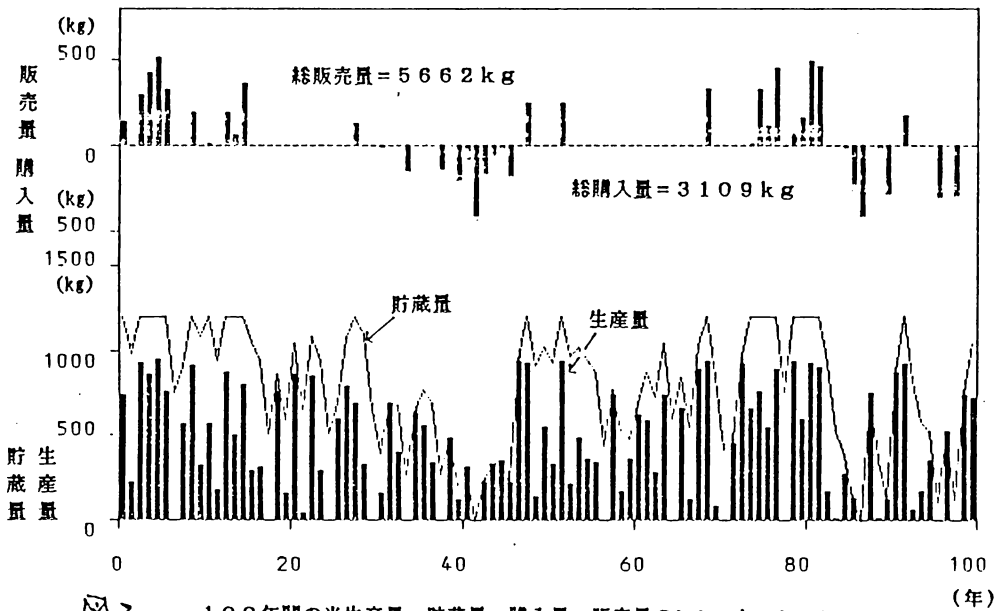


図2 100年間の米生産量、貯蔵量、購入量、販売量のシミュレーション
(低位田、中位田、高位田を合わせ持つ場合)

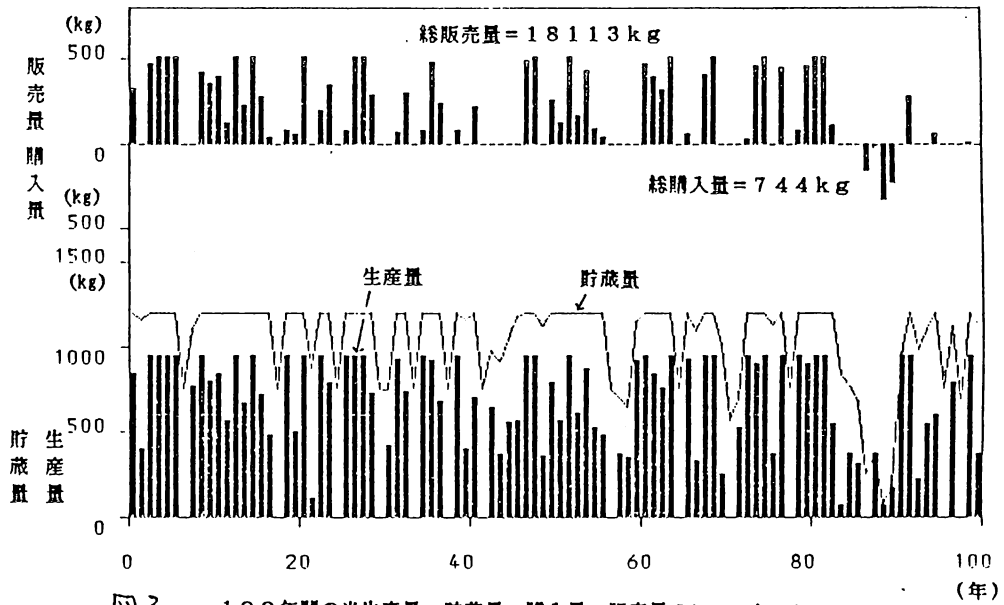


図3 100年間の米生産量、貯蔵量、購入量、販売量のシミュレーション
(低位田のみの場合)

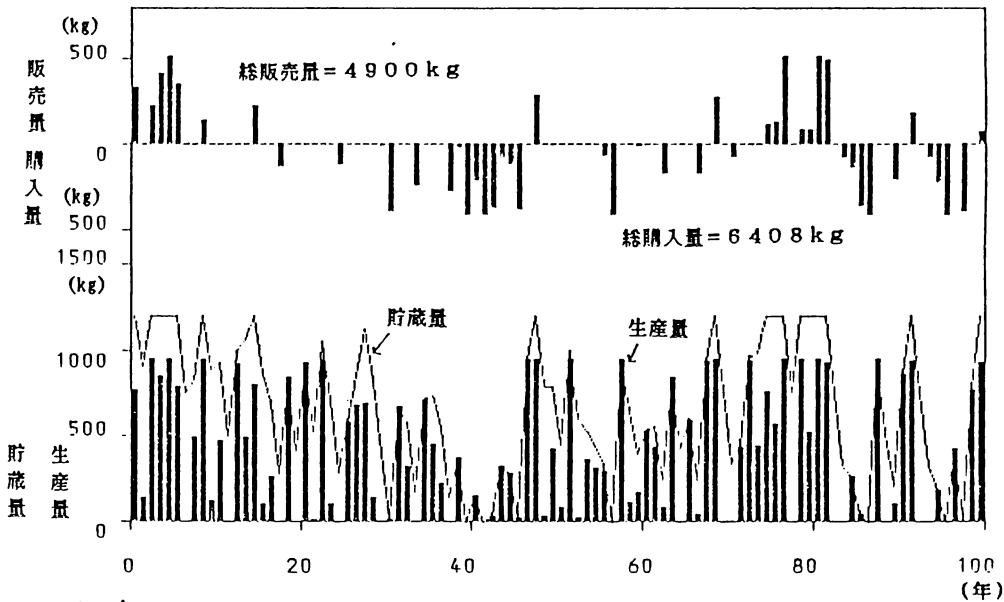


図4 100年間の米生産量、貯蔵量、購入量、販売量のシミュレーション
(中位田のみの場合)